



鵜鮎つうしん

岐阜ダルクニュースレター平成25年夏号(41号)



「回復に必要なもの」

ダルク後援会

会長 斎藤幸二

薬物依存症の人々が回復するために欠かせない三つの事があります。第一は本人の「回復したい」という意思です。すべての薬物依存症の方がそのような思いをもっているわけではありません。病気で苦しい思いをしているのに、心の底ではそのような状態に安住したいと思っている人々もいます。でもその結果どうにもならなくなって、本気で回復を願うようになります。ダルクでは利用者に、毎日三回のミーティングに参加することを義務付けますが、それを続ける事ができるのは何よりも本人に「回復したい」という意思があるからです。

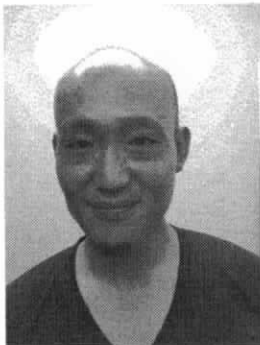
第二に必要なものは一緒に回復の道を歩む「仲間」です。ダルクにかかわって驚くのはその仲間意識の強さです。毎日のミーティングでも仲間の果たす役割は大きいのですが、岐阜ダルクの設立記念の「フォーラム」には多くの仲間が、北は北海道から南は九州まで、日本全国から駆けつけます。彼らにとって仲間を応援する事は、それによって自分を励ますことでもあるのです。

回復に必要な三つ目は皆様の支援です。ダルクは利用者が社会復帰するための活動ですから、常に一定の利用者を確保し、安定した収益を期待することはできません。この働きを支えているのは、回復を願って歩もうとしている人々を大切に思ってください、支援してください、皆様の力です。これからも本人の願い、仲間達の力、そしてダルクを支えてくださる人々の愛情によって、一人でも多くの方が回復への道を歩まれるようにと願います。

ダルクおさらい奮闘記

こんにちは。薬物依存のケンタローです。

僕は、約8年前に初めて名古屋ダルクにつながりました。最初は薬をやめるつもりはなくて、親に「頼むからダルクに行ってくれ」と言われしょうがなくダルクに行きました。だからミーティングで過去の話全然しませんでした。施設に薬を使いながら行った事もあったし、薬を持ち込んだりしました。好き放題やって最後に彼女を作って施設を出ました。その後仕事に就きました。7年間ラーメン屋で働きました。仕事をやめて自分は何がしたいのか考えました。自分も施設をやりたいと思い仲間に相談しました。そうしたら岐阜ダルクに3ヶ月間行って来いと言われ、最初は正直嫌でした。「またダルクか～」と思い悩みました。けど今必要な事は、仲間とプログラムをやる事と思い岐阜ダルクに来ました。一番のニガテの事は仲間と一緒に行動する事でした。最初の方は人数が少なくてよかったのですがだんだん増えてきて10人ぐらいになり、もううんざりになっていきました。サポートするのも嫌になってきました。イライラする事も増えてきて、だけど昔仲間にしてもらった事、新しい仲間をサポートする事を思い出して自分なりにサポートしました。よく誰もいない部屋に逃げました。あと苦手な事はミーティングで正直に話す事でした。女性問題だったり、薬の問題、暴力の問題いろいろ正直に話していきました。生き方を変える行動をしていきました。3ヶ月経って何か変わったのか実感があまりないですけど、今は名古屋に戻り毎日夜のNAミーティングに出ています。いつまで続くかわからないけど一日一日を大切に生きています。



関係機関との連携

NPO 法人岐阜ダルク
施設長 遠山 香



ダルクの通所者が増えました。

刑務所から仮釈放を受けて出所、更生保護施設に入所し、そこから毎日岐阜ダルクへ通所する仲間達です。保護観察所からの薬物依存回復訓練の委託を受けて通ってきます。岐阜ダルクを利用するにあたり、どなたにも「3ヶ月間、毎日休まずに通って下さい。3ヶ月間は仕事に行くことはできません。」と伝えると「休みがない？仕事に行けないなら無理です」と多くの人が言います。「薬を使うのに休みの日は使いませんか？」「仕事に行きながら使っていませんか？」と聞くと「使っていました」とほとんどの方が言います。「やめるためのリハビリには休みはありません」と言うと言り返す言葉を失くす方もいます。

現在通所しているその仲間達も刑務所の中で、更生保護施設の職員の方から面接を受けた時、「ダルクのリハビリプログラムを3ヶ月間受ける意志はありますか？仕事はできませんよ」との問いかけに簡単に答えたようです。ダルクに毎日通所することで自由な時間がないことを目の当たりにして「こんなはずじゃなかった」と不満を抱く仲間は少なくありません。仮釈放を一日でも長くもらいたいとの一心で都合の悪いことは聞こえなかったのかもしれないと思うところもあります。

文句や不満は朝のダルクミーティングや夜のNAミーティングで話すよう働きかけます。ミーティングで正直な話をするのがとても大切なのです。ミーティングで仲間達の不満を聞いていると思わず吹き出してしまいます。私もダルクに繋がったばかりの頃は文句ばかり言っていたことを思い出します。

ありのままの自分を正直に分ち合うことがお互いを支え合う大きな力となります。仮釈放が終了した時点でダルク通所をやめる仲間もいますが、いつかまた困った時にダルクを利用してもらえればいいのかと思っています。いずれまた、ダルクの回復プログラムを必要とする時が来ると思う。薬物依存からの回復はそんなに甘いものではないと私自身の経験から強く思っています。

編集部より

※仮釈放 懲役・禁錮の受刑者のうち改悛の情があると認められる者を、行政官庁（地方更生保護委員会）の処分により、一定の条件をつけて仮に釈放すること。対象者は保護観察に付される。

※更生保護施設 保護観察中の仮釈放者などで頼ることのできる人がいない、生活環境に恵まれない、など直ちに自立更生が難しい者を一定期間受け入れ、円滑な社会復帰を助けて再犯を防ぐことを目的とする施設。宿泊場所や食事が提供され、自立に向けた指導や援助が与えられる。

※ダルクに通所すると仕事に行けない 岐阜ダルクでは社会復帰のため断薬のリハビリを就労よりも優先しています。断薬のリハビリが不完全なまま就労すると、得た金銭で再び薬物を購入してしまうからです。

※岐阜ダルクの一日の活動について、YouTubeの動画に編集してまとめました。「岐阜ダルクの一日」で検索をかけてご覧たまわれ幸いです。

5/12 (日)

岐阜ダルクチャリティーコンサート

チケット売上与会場での募金活動合わせて 237,678 円が集まりました。
ご協力ありがとうございました。活動資金として大切にさせていただきます。



総勢 128 名のご来場者



震災の歌「花は咲く」を最後に
全員で歌いました。



中日新聞社会事業団岐阜支部様よりご後援いただき、チャリティーコンサートを開催しました。
岐阜カトリック教会様より無料で会場を貸していただき、演奏者の方々のチャリティーでのご協力により行われました。ダルクの仲間達も「生の演奏に聞き入った」「パイプオルガンの音色に酔いしれた」「贅沢な時間を過ごせた」「アヴェマリアの曲に心が揺さぶられた」「震災の歌に感動した」「迫力があつた」「自信に満ち溢れてうらやましかったです」「きれいだった」と芸術にふれる素晴らしい時間を過ごしました。

中日新聞社会事業団岐阜支部様より花いっぱい運動で花や野菜の苗をいただきました。



石がごろご
ろある家の
庭に、畑と花
壇を作ると
が育つかど
うか疑いま
した。土を掘
り起こして
石を取り除
く作業は大
変だったけ
ど、今は植
物の成長が
楽しみです。

5/18 (土) 各務原市にある伊木山
ガーデンのフリーマーケット参加



地域で行われ
ているフリー
マーケットに
参加し、ダルク
のパンフレッ
ト配布し、一
人も多くの方
に活動を知っ
てもらいため
に行つていま
す。ご家庭に
る新品の不要
品がありまし
たらご協力下
さい。

6/8 (土) 清掃ボランティア ゴミレンジャー登場

誰でも就労支援岐阜支部の団体様よりボランティア活動のお誘いがあり参加しました。
目立つ格好をしてゴミ拾いをする
ことでゴミを捨てる人がなくなる
ことを目的として岐阜駅周辺の清
掃活動を行いました



初めて衣装を着て、恥ずかしさどさぼりた
という誘惑がある仲間もいましたが、町の人
が応援してくれたり声をかけられ子供たち
と写真を撮ったりしていきうち楽しくな
りました。いい経験が出来ました。

5/31 (金) 長良川でバーベキュー



月に一度のレクレーション。
全員一致でバーベキューをやる
ことに決まり、炭おこしも着火
剤を使わずにうちわでみんな
でパタパタ。

6/17 (月) 薬物依存症の体験談による講演



岐阜西中学校にて薬物依存に陥ったま
っかけや、回復について、薬物に手を出
さないためにはどうしたらよいかなど
について話しました。

活 動 報 告

5月

- 2日 ダルク後援会
- 4日 ハウスミーティング
- 7日 金華山登山・ライオンズクラブ例会
- 8日 薬物電話相談日
- 10日 野宿生活者支援ボランティア
- 11日 薬物電話相談日
- 12日 岐阜カトリックチャペルコンサート
- 14日 保護観察所引受人会
- 16日 岐阜清流マラソンボランティア
- 18日 伊木山フリーマーケット参加
- 19日 グループホーム交流会参加
- 21日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 24日 笠松刑務所運動会見学
- 25日 薬物電話相談日・NANA月の風オープンスピーカー参加
- 26日 岐阜純福音教会にて活動紹介
- 29日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 31日 レクレーション (バーベキュー)

6月

- 1日 岐阜ハチドリ基金説明会
- 3日 各務原病院メッセージ
- 4日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 6日 ダルク後援会
- 7日 ハウスミーティング
- 8日 薬物電話相談日
- 9日 岐阜キリスト教会にて活動紹介
- 10日 NPO理事会・総会
- 12日 薬物電話相談日
- 14日 野宿生活者支援ボランティア
- 16日 聖イエス会岐阜教会にて活動紹介
- 17日 岐阜西中学校講演
- 21日 ハウスミーティング・九州ステップセミナー参加
- 22日 薬物電話相談日
- 23日 一宮聖光会にて活動紹介
- 24日 各務原病院メッセージ
- 28日 東濃実業高等学校講演
- 30日 可児福音教会にて活動紹介

7月

- 5・6・7日 NAコンベンション京都参加
- 12日 野宿生活者支援ボランティア
- 13日 薬物電話相談日
- 14日 愛知家族会
- 18日 笠松刑務所薬物離脱指導

今後の活動予定

- 7月28日 各務原カトリック教会活動紹介
- 7月19日 アルコール関連学会
- 7月20日 びわこ家族会
- 7月27日 薬物電話相談日
- 7月30日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 8月6日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 8月10日 薬物電話相談
- 8月17日 ピア岐阜
- 8月24日 薬物電話相談日
- 8月27日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 9月11日 薬物電話相談日
- 9月14日 薬物電話相談日
- 9月16日 岐阜ダルクフォーラム
- 9月28日 薬物電話相談日

女性ハウスだより

岐阜ダルク女性ハウス
責任者 勇陽子



日に日に暑くなってきましたが、皆様お元気にお過ごしでしょうか？
3月3日に女性ハウスを開設し4ヶ月が経とうとしています。ハウスには、2人の女性が入寮しています。毎日時間になったらみんなで掃除をし、岐阜ダルクまで約20分歩いて通っています。

私は以前のうどん屋のアルバイトとはガラリと仕事内容が変わり、大勢の人の前で話す事や、名刺を渡して自己紹介をすることや、相談の電話をとる事など緊張感の高い状態の日が多くなりました。緊張している私に周りの仲間が「祈ると良いよ」と声を掛けてくれます。支えてもらっているし、一人では無理だとつくづく感じます。

最近ハウスで光熱費の節約の為に週に2回みんなで食事作りをはじめました。2人の仲間は楽しんで作っているのか…わかりませんが、私は（料理が苦手ですが）みんなと一緒に作る時は楽しんでいます。

ある仲間が数か月前とは笑う表情が違い、少しずつですが「いい笑顔」になったように感じています。回復する場さえあれば、たとえ時間がかかっても元気になれると思います。皆様の支えに感謝します。これからもどうぞよろしくお願ひします。



良リ子のみんな!!
地球を大切にしよう!! (みどりレンジャー)

平成24年度 特定非営利活動に係る事業会計収支計算書 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

特定非営利活動法人 岐阜ダルク

科 目	金 額	
(資金収支の部)		
I 経常収入の部		
1 会費・入会金収入		
入会金	0	
普通会費	24,000	24,000
2 事業収入		
講演料	343,664	
薬物離脱指導料	652,000	
バザー・フリーマーケット	4,305	
利用者入寮費	734,698	
その他	95,941	1,830,608
3 助成金		
地方公共団体	866,600	
民間	465,000	1,331,600
4 寄付金		
後援会寄付金	1,100,000	
一般寄付金	1,986,608	
募金	421,172	
女性ハウス設立準備基金寄付金	2,280,087	5,787,867
5 雑収入		
受取利息	185	
雑収入	9,750	9,935
経常収入合計		8,984,010
II 経常支出の部		
1 事業費		
薬物依存症者のリハビリテーション施設の設置運営	4,582,510	
薬物依存症者等の相談及び生活支援事業	333,490	
薬物依存に関する教育、講演会、研修会、セミナー、イベント等の	991,488	
薬物依存症者の福祉に資する広報事業	234,896	6,142,384
薬物依存症者の福祉に資する広報事業		
2 管理費		
法定福利費	385,198	
委託料	150,000	
通信費	55,371	
備品	86,300	
消耗品費	30,082	
水道光熱費	73,233	
賃借料	226,667	
租税公課	600	
諸会費	18,000	
雑費	7,830	1,033,281
経常支出合計		7,175,665
経常収支差額		1,808,345
III その他資金支出の部		
1 固定資産取得支出		
建物付属設備購入支出	0	
車輛運搬具購入支出	0	
什器備品購入支出	0	
その他資金支出合計	0	0
当期収支差額		1,808,345
前期繰越収支差額		602,057
次期繰越収支差額		2,410,402

ご支援のご協力をいただき心から御礼申し上げます

岐阜ダルク寄付金者名 (3月12日～6月23日)

稲垣和枝 松井康代 北谷雅春 那加教会・改革派教会 岡田喜美江 中京大学スポーツ科学部・家田重晴 池田時造 同盟福音基督教会・岐阜キリスト教会 永嶋恵美 田口大輔 中村安之 今川亘 青井初恵 渡辺真帆 カトリック各務原教会 永田満子 戸崎正文 川原聖 山田慶子 カトリック名古屋教区・社会福祉委員会 植本克年 北野いつみ 各務原病院 上岡ハルエ 国際ソロプチミスト岐阜 早川昭雄 岐阜純福音キリスト教会 聖イエス会岐阜教会 浄土真宗本願寺派・光専寺・楠洋子 小山寺・中西東峰 岩間裕子 池谷浩司 脇若保雄 伊藤和子 弁護士・伊藤知恵子 清水宗夫 蜂谷文雄 聖泉キリスト教会 吉田和郎 豊一 a 夢子 小島譜実加 (株)養清興業 不破葬祭 一宮聖公会 日本聖公会中部教区愛岐伝道区 匿名者4名

女性ハウス寄付金者名 (3月12日～6月23日)

加藤洋子 青井初恵 梅沢雪子 清水宗夫 豊一 a 夢子

岐阜ダルク献品者名 (3月12日～6月23日)

日置芳夫 不破葬祭

※お名前の記事につきましては注意を払っておりますが、万が一お名前が誤字・脱字または記載漏れなどございましたら、誠に申し訳ありませんが、ダルクまでご連絡をいただけますようお願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため皆様全員に振込用紙を同封させていただいておりますことをご了承下さい。また匿名希望の方は、恐れいりますが、その旨を振り込み用紙通信欄にその都度ご記入下さいますようお願い致します。

※岐阜ダルクでは毎月35万円程度の活動資金を必要としておりますが、その多くを皆様方からのご寄付によっております。引き続きみなさまがたのご理解とお力添えをお願い申し上げます。

※岐阜ダルク 郵便振替口座 00840-5-167752 岐阜ダルク後援会

施設からのお願い

- ダルク利用者が増加し、レクリエーションやNAのイベントに参加する機会などに、現在ダルクで使用している乗用車は7人乗りですが全員が乗れません。女性ハウスのスタッフが乗る車を探しています。軽自動車または普通乗用車(1300cc)を譲って下さい。
- 献品としてお米をいただくと大変助かります。お力添え下さい。
- バザーやフリーマーケットに出展するため、ご家庭で眠っている新品のタオルなどの家庭用品などいただけると幸いです。

後援会からのお願い

- YouTubeでの『岐阜ダルク募金のお願い動画』の出演者を募集しています。氏名・所属団体名・お顔が出せるかたは、後援会・鈴木輝一郎 kumasan@kiichiros.com までご連絡ください。

編集 特定非営利活動法人 岐阜ダルク
編集担当 岐阜ダルク後援会 齋藤幸二 鈴木輝一郎
〒500-8175 岐阜市長住町7-3 TEL/FAX: 058-251-6922
Email: gifudarc2004@yahoo.co.jp
ホームページ: <http://www.gifu-darc.org/>
2013年 岐阜ダルクニュースレター平成25年夏号 (No.41)
定価 1部 200円
編集責任者 遠山 香
発行所 東海身体障害者団体定期刊行物協会
名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター